

Luncheon Linguistics, 12/20/2023

2023（令和5）年12月20日

「日本語学会第167回大会報告」

発表者：宮川寛人（東京外国語大学大学院博士前期課程）

本発表は、日本語学会第167回大会（以下、大会）について、大会の概要及び発表されたものの一部について紹介を行い、学会報告をしたものである。大会は同志社大学京田辺キャンパスにおいて2023年11月11日（土）及び同12日（日）の2日間開催された。1日目は口頭発表（20件）、ポスター発表（42件）があり、2日目はワークショップ（4テーマ）、公開シンポジウム「「語」とは何か?—その多面性を探る」があった。口頭発表から「アミ語は本当に能格言語なのか」、ワークショップから「言語類型論の諸問題に対する帰納的アプローチ」をピックアップし紹介した。前者は、アミ語が能格言語と対格言語の中間的な性質を持つことを示唆し、能格/対格という2元的な見方を見直しつつ、アミ語の能格性についての諸問題を検討したものである。後者は、語学研究所が諸言語の特徴を構文ベースで収集したデータを元に幾つかの観点について言語類型論的な考察を行ったもので、当該データの活用法を模索したものである。